



令和8年9月29日(火) 第8号

学校教育目標

健康で明るく

心豊かな

主体的人間の育成

校章



校訓

健康な体

誠実な心

前進する力

あいさつは、未来の自分を支える「一番最初の基本」

校長 石田 憲一

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

先日開催された学校祭では、生徒たちの眩しいほどの輝きに心を打たれました。

舞台に立った当初の緊張した面持ちが、曲が始まると同時に一変し、仲間を信じ、懸命に声を合わせる姿。体育館の天井を押し上げるかのように響き渡った力強いハーモニーは、聴く者の胸を強く揺さぶりました。

また、合唱コンクールの表彰式で見せてくれた、溢れ出る嬉し涙や悔し涙、そして最後には弾けた満面の笑顔。あの喜怒哀楽の表情すべてが、今日までの葛藤や練習の日々、そして歌声に込めた強い思いを物語っていました。全校合唱の「ほらね、」も期待以上に大変素晴らしかったです。

さて、突然ですが、あるプロスポーツチームの指導者が、入団テストで技術と同じくらい重く見ている観察ポイントをご存じでしょうか。それは、「自分から元気に挨拶ができるか」「身の回りの整理ができるか」だそうです。どんなに技術があっても、挨拶ができない選手は「周囲への感謝や敬意が足りず、土壇場で成長が伸び悩む」と言われているからです。

これは学校生活やスポーツ、習い事の場合でもまったく同じことが言えます。

登校時や廊下ですれ違った際、気持ちのよい挨拶ができる子は、周囲から信頼され大きく伸びていきます。一方で、技術や成果ばかりに目が向き、当たり前の挨拶や礼儀が後回しになると、せっかくの努力や学びの機会も半減してしまいます。

子どもは親の背中を見て育ちます。社会に出て人と関わる上で、挨拶や感謝の姿勢は一生の財産です。

実は私自身も、仕事先や出先で「今日の自分はきちんと挨拶やお礼ができただろうか」と、帰宅後に反省することが度々あります。

思い返せば小学生の頃、父は進級するたびに新担任のご自宅へ私を連れ立ち、親子で挨拶に伺う習慣がありました。当時は不思議でしたが、父が亡くなった今となってみれば、「よろしくお願いします」という想いと同時に、「大人として大切な姿勢（父親の背中）」を言葉ではなく行動で見せてくれていたのだと感じます。

学校での指導はもちろんです、最も身近な学びの場はご家庭です。「最近、気持ちのよい挨拶ができているかな？」と、今一度お子様の日常を思い浮かべてみてください。家庭と学校が手を携え、社会で愛される子どもたちを育ててまいりましょう。



10 月行事予定

日	曜	学 校 行 事
1	木	生徒会役員選挙・立会演説会 【心】
5	月	非行防止教室(2年) 【心】 ノーチャイム(～7日)
6	火	苫小牧西高等学校見学会(2年)
7	水	学力テスト総合A(3年) 【SC】
8	木	6組現場実習(～9日) 【心】
9	金	6組現場実習見学
12	月	教育相談(～21日) 【心】
15	木	【心】
16	金	認証式 全協/常任委員会
19	月	テスト範囲表配付 【心】
21	水	6組白樺高等養護学校見学 【SC】
22	木	薬物乱用防止教室(3年) 【心】
23	金	全協/会計会議
26	月	【心】
28	水	【SC】
29	木	【心】

【SC】：スクールカウンセラー

【心】：心の教室相談員

第1学年 ふるさと学習

9月9日(水)、第1学年において、学校と地域が一体となって、ふるさとの良さや課題について学び、地域社会における自己の生き方や在り方を考えることを目的にふるさと学習が実施されました。



KOYO Photo gallery



LGBT 講話



ソロプチミスト助成金贈呈

表彰伝達(サッカー部)



6組校外学習

